

徐々に出てきています。白ではプレミアムブロンドの市場認知度が高いですが、抑制時期に 18-20 で対応でき、ガク割れしにくいオリエンタルの選択肢があります。又、暑い時期の定植用にザンベジ以外の白OTの供給が増えてきています。“6月のゆりの展示会”では多くの品種を比較しながらご覧いただけますので、ぜひご参考にいただければ幸いです。

④ オリエンタルはルネサンス(再生・復活)時代に入った

花粉無しにつきましては、将来的にリバーシ리즈が期待され、その他育種会社でも同様に開発が進んでいます。弊社では、輸出会社協力のもと、育種会社と提携し、隔離栽培ハウスにて春と秋の試験結果をフィードバックしています。

ここ数年、社会様式の変化で、百合は業務需要に加えて、一般消費者向けが意識され、世界的に花粉無しのシングル・八重の人気(需要)が高まっています。

現在のところ、OTで花粉無しや八重を作る動きは限定的で、この“無花粉グループ”はオリエンタルが主戦場となります。6月のゆりの展示会向けに栽培しているオリエンタル(4.5号室)約200品種のうち、無花粉グループは40%になっており、2023年産から供給量が増える品種も多くなってきます。

(花粉無しシングルは、まだバンドームとベストリガーズが主な供給品種です)

農業関係以外のメディアでも、時折シャインマスカットについてニュースを見かけますが、2010年までほとんどなかった生産量は毎年右肩上がり拡大し、2022年の面積はついに巨峰やデラウェアを抜いてブドウの首位になりました。同時にkg当りの単価も伸び続けており、既存の“種あり”皮をむくブドウと一線を画しています。“花粉なし”のパイロット品種であるバンドームも、テスト的な販売を始めてから約10年を要しましたが、商品開発とマーケット形成には長い年月がかかると実感しています。成功のために共通しているのは、末端消費者の期待に素直に答えてきた、生産・流通に関わる方々の“情熱”でしょうか。

⑤ 「6月のゆりの展示会(6月15~17日開催)」へ来てみい~や!

厚生労働省は、5月8日にコロナを5類に移行することを正式決定しました。

高知県では、NHKの朝の連続テレビ小説「らんまん」がスタートし、牧野植物園を始め観光に力を入れており、今年3月に天然記念物の鍾乳洞「龍河洞情報館」や「桂浜公園(店舗・施設)」もリニューアルされています。

高知に来られた際には、ぜひ、「6月のゆりの展示会」にもお立ち寄りください。

市内にお泊りの方には、今年はあるぞ「ナイトフェスタ」もおすすめです。

よろしくお願い致します。

以上